

## 第2学年の取組

### 1. 目指す児童像

学習課題が分かり、自分の考えを友だちと伝え合いながら、考えを広げる児童

### 2. 研修主題にかかわる身に付けさせたい力と児童の実態

児童の実態	身に付けさせたい力
<p>①学習課題を見通して、自分なりの考えを持つことができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習課題を見通しをもって学習することが難しい児童がいる。</li><li>・既習事項を生かして、自分なりに考えをもつことのできる児童は多い。</li></ul> <p>②学習課題を解決する場面で、交流活動を通して自分の考えを広げ、深めることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・個人差があり、自分の考えを表現するまでに至らない児童がいる。</li><li>・語彙が少なかったり、図や式で表せなかったりと、考えがもてたとしても、それを表現することは難しい。</li></ul> <p>③課題解決的な学習を振り返って、自分の考えをまとめたり、修正したりすることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・受け身になり、他の児童や教師がまとめたことをそのまま受け入れる児童が多い。</li></ul>	<p>【国語・算数】</p> <p>○自分の考えを図や式、言葉に表す力(①)</p> <p>○自分の考えをもち、相手に伝えようとする力(②・③)</p>

### 3. 目指す児童像にせまるための具体的な手立て

①既習事項を生かして、見直しをもって学習に取り組ませる。

- ・既習事項を確認できるような掲示物を貼る。
- ・既習事項と比べて、何が違うか気づかせる。

②自分の考えをもち、分かりやすく友だちに伝えることができるようにする。

- ・ワークシートを工夫して、図や式、言葉で書き表し、ペア学習などで説明する機会を多く設定する。
- ・登場人物の心情や情景描写など、気になる箇所に傍線を引かせたりメモを取らせたりすることで課題解決の際に必ず根拠を明らかにして発表や説明を行えるようにする。
- ・交流学习で、進んで意見交流できるよう、「まず」「次に」「だから」などの言葉が使えるようにする。

③友だちの意見と比べたり、自分の活動を振り返ったりすることで、その時間のまとめができるようにする。

- ・でてきた考え方の中から、どの考えが「はっきりと、かんたんに、せいかくに」解けるか比較検討する機会を設定する。
- ・まとめのことばを自分で考えて書かせる機会を設定する。

#### 4. 授業実践

##### 国語科学習指導案

平成28年11月21日(月)第3校時  
2年組 指導者 重野 ひろみ  
場 所 2年組 教室

身に付けさせたい力  
手順に沿って順序を表す言葉を用いたり、絵や写真と対応させたりして文章を書く力

授業の視点  
型にあてはめながら文章を書くことは、どんな言葉を使えば分かりやすいかを考えるために有効であったか。

1. 単元名 分かりやすい「せつめい書」を書こう。  
教材名「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」 光村図書 二年 下
2. 単元の目標  
説明の工夫を使って、作り方を説明する文章を書くことができる。 [B (イ)]
3. 本時の学習 (4 / 13)
  - (1) 本時のねらい  
順序を表す言葉を使うことや数字や写真を使って説明することが分かりやすい説明の仕方であることを読み取ることができ、それを使うことができる。
  - (2) 準備 ワークシート、掲示用資料
  - (3) 展開

学習活動	時間	支援および留意点	評価項目
1,しかけカードを作ってみて分かりにくかったことは何か考える。	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り、本時の課題をつかませる。</li> <li>・なぜわかりずらかったのかを発表させ、どんな人が読んでも分かる文を意識させる。</li> </ul>	
分かりやすいせつめいのくふうをみつけよう。			
2,「しかけカードの作り方」を読むことで、分かりやすく説明する工夫を見つける。(全体)	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈はじめの文〉〈ざいりょうとどうぐ〉〈作り方〉〈あそび方〉の4つで文章を構成していることを確認する。</li> <li>・「順序を表す言葉」「具体的な数値や絵や写真」「アドバイス文」の3つを説明の工夫としてまとめさせる。</li> </ul>	[読] 教材文の説明書の内容を正しく読み取っている。
3,説明の工夫を使って、自分が書きたい「せつめい書」の下書きをする。(2人組)	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科の「あそびの国」で作ったおもちゃや、収穫して調理したスイートポテトの作り方などを思い出しながら、分かりやすくする工夫を使って、自分のせつめい書を書くことを確認する。</li> <li>・説明することの順序を確かめ合いながら、まずは「順序を表す言葉」で書き進めることを伝える。</li> </ul>	[書] 型にあてはめながら説明書を書いている。
4 本時の学習を振り返る。	2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明の工夫を使って書くことができたかを振り返らせる。</li> <li>・次時は「アドバイス文」を付け加えることを伝える。</li> </ul>	

- (4) 校内研修とのかかわり  
2人組やグループでのアドバイス活動を通して、自分では気付かなかった文章の不備に気付いたり、より分かりやすい説明書にしたりして、書くことを楽しむための手立てとした。
- (5) 本時の反省  
順序を表す言葉を使った説明の仕方は理解できたが、作文する際には、内容を区切る段落構成を考えて使うことは難しかった。また、絵や写真は、どの説明文に必要なのかを考えるための手立ても必要であった。

算数科学習指導案

平成 28 年 11 月 21 日 (月) 第 4 校時  
 学習室 組 指導者 松田 百重  
 場所 学習室 組

身に付けさせたい力  
 既習事項をもとに問題を解決する力。

授業の視点  
 問題解決の際、合同な図形のかき方を想起させ、教師と一緒に確認しながら拡大図のかき方を考える活動は、本時のめあてを達成するために有効であったか。

<6年>

1. 単元名 拡大図と縮図
2. 単元の目標
  - ・図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。
  - ・拡大図や縮図について理解する。
3. 本時の学習 (5/11)
  - (1) 本時のねらい 辺の長さや角の大きさを使った拡大図のかき方を考える。
  - (2) 準備 教科書 ノート コンパス、定規、分度器、アイテム。
  - (3) 展開

学習活動	時間	支援および留意点	評価項目
1. 課題をつかむ。	7		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">                     三角形 ABC の 2 倍の拡大図をかこう。                 </div>			
2. 解決する。 ・底辺にあたる辺 BC の 2 倍の辺 EF から頂点 A に対応する点 D を決め三角形 DEF をかく。  ・別の方法で拡大図をかく。	38	・3通りの合同な三角形のかき方を確認する。① 3 つの辺の長さ② 1 つ辺の長さとその両端の角の大きさ③ 2 つの辺の長さとその間の角の大きさ  ・拡大した三角形 DEF が正しくかけているか、かくときに使わなかった辺の長さや角の大きさを調べて確かめるようにする。 ・合同な三角形のかき方と結びつけて自分が選んだ方法と別の方法でも拡大図をかけるようにする。 ・類似の練習問題に取り組みさせる。  ・三角形の拡大図のかき方を 3 つに分類してまとめる。	【数学的な考え方】必要十分条件を意識しながら拡大図のかき方を考えている。(記述、発言)
3. 学習のまとめをする。			

<2年>

1. 単元名 かけ算 (2)
2. 単元の目標 乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。
3. 本時の学習 (2/14)
  - (1) 本時のねらい 6 の段の九九を用いて問題を解決する。
  - (2) 展開

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">                     6 のだんの九九をおぼえよう。                 </div>			
1. 6 の段の九九の呼称を知る。	45	・六が 6 から順に唱えて練習する。  ・九九カードを使って二人で交互に言ったり、逆に言ったりして練習する。  ・唱えずらいもの、覚えるのが難しいものは大きな九九カードに書いておく。 ・絵を見て 1 箱分のドーナツが 6 個ずつであることを確認する。 ・アイテム、算数プリント等で同様の問題に取り組みせ、学習のまとめとする。	【技能】6 の段の九九を唱えることができる。
2. 九九カードで練習する。			
3. 問題を解く。			
4. 学習のまとめをする。			

<3年>

- 「三角形」(3/13)  
 三角形の構成・分類を通して、二等辺三角形、正三角形について理解する。

校内研修とのかかわり

教師と一緒に既習事項を確認しながら測ったり、作図したりする時間を十分とる。集中力がとぎれないよう、また安心して取り組めるよう学習環境に配慮したり視覚でとらえやすい教材を工夫したりして、確かな学力につなげていきたい。

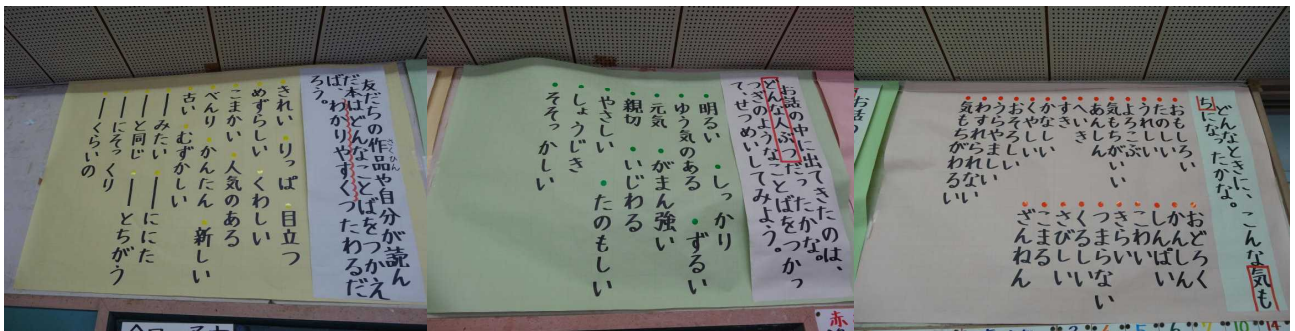
本時の反省

合同な三角形の条件を理解して、拡大図をかこうとしていた。図や絵を常に掲示し視覚に訴える教材を用意することで理解は深められた。作図したものについて説明する時間を十分とらせたかった。

## 5. 成果と課題 (○…成果 ●…課題)

### 【国語科】

- 二つの説明書（説明書Aは不十分なモデル、説明書Bはよいモデル）を提示したことで、分かりやすい説明書について考え、説明書があればだれにでも作り方を教えられることが分かり、おもちゃの説明書作りという学習のめあてにつなげることができた。(①)
- 生活科で自分のお気に入りのおもちゃを作らせておいたことで、作り方の手順やコツなどが明確になり、説明書を書くときに生かすことができた。(①)
- 友達とお話を読み合う活動を通して、ストーリー展開の多様性に触れたり表現の豊かさに気付いたりし、自分のお話のストーリー展開や表現に生かすことができた。(②)
- 短文作りや文章を書き直す学習活動を行ったことで、文章の中で漢字を使おうとする意欲を持たせることができた。(③)
- 教室に以下のような掲示物を貼ったことで、感想を言い合ったり、お互いに説明し合ったりする際の語彙が増えた。



- 作り方の説明について自分のおもちゃの説明書に使いたい言葉を見つけ、サイドラインを引くときは、説明に使えるような言葉を全体で確かめ、分類してから自分のおもちゃに必要な言葉を選んでサイドラインを引かせた方がよかった。(①)
- 話が広がったまま、収束しないで終わってしまう児童がいた。場面の順番や中心となる場面の設定などをおおまかに考えさせ、どこから始まりどこで終わるかを意識して書かせた方がよかった。(②)
- 自分で書いた説明書を読み返すときは、作り方が分かっているため説明の分かりにくさに気付くにくかった。観点を提示して、自分の説明書について振り返らせた方がよかった。(③)
- 漢字そのものが持つ意味等の理解が浅いため、同音異義語の漢字の間違いが多かった。一つひとつの漢字が持つ意味を定着させる必要があった。

### 【算数科】

- 既習事項を確認できるような掲示物を貼ったことで、課題解決学習の際に、既習事項をふりかえりながら取り組もうとする意識が高まった。(①)
- 既習事項と比べて、何が違うか気づかせたことで、課題解決への見通しがもてた。(①)

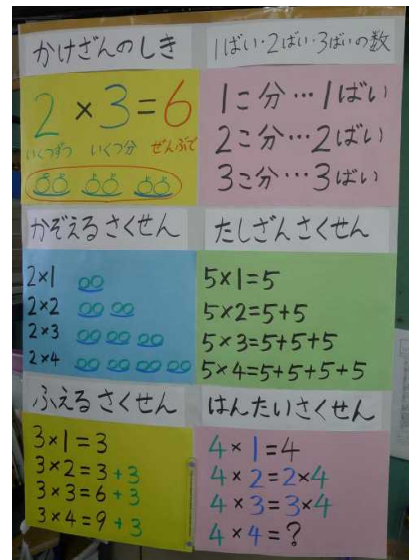


○課題解決で用いる考え方を○○作戦と称して教室掲示した。

ワークシートにも使いたい作戦名を書くなど見通しをもたせてから記述させたことで、自分の考えをもつことができ、ペア学習などで友だちに分かりやすく伝えることができた。(②)

○説明するときに、「まず」「次に」「だから」などの言葉が使えるよう指導した。ペア・グループで発表するときや全体で発表するときに、「まず」「次に」「だから」などの言葉が使える児童が増えた。

○でてきた考え方の中から、どの考えが「はっきりと、かんたんに、せいかくに」解けるか比較検討したことで、それぞれの考え方の良さを考える機会を得ることができた。(③)



●既習事項をまとめて掲示したことで、学習内容を覚えようとする意識がもてなかった児童がいた。掲示物を活用する場合は、繰り返し掲示物を活用したり、唱えさせたりする必要があると感じた。(①)

●個人差があり、ワークシートに記述できない児童もいた。低位の児童も活躍できるようワークシートを難易度別に作成したり、ヒントカードの活用をしたりする必要がある。(②)

●まとめの言葉を自分で考えて書く活動も行ったが、全く書くことができずにいる児童もいた。板書で大事なところに印をつけるなどして、板書計画を練る必要がある。(③)

### 【基礎・基本の定着】

○漢字・計算コンテストを実施した。2, 3週間前から宿題や家庭学習用に練習問題を配付し、繰り返し取り組ませた。そのことで、日頃から漢字練習や計算練習に取り組む意欲が高まった。更に、漢字や計算の定着率（コンテストで80%以上得点した児童の割合）が以下の表のように変容した。今後もコンテストへの意識付けをして日々の学習に取り組ませたい。

定着率の変容

	1学期	2学期	割合の増減
漢字コンテスト	81%	91%	+10%
計算コンテスト	89%	97%	+8%

●家庭学習の質・量ともに個人差が見られるのが課題である。対策として、以下の2点を後半に実施することとした。

①自主勉強がよくできている児童のノートをコピーし、モデルとして教室に掲示する。

②音読を日々の宿題とし、音読カードに記録させていたが、名前を家庭学習カードに変更し、家庭学習の時間や自主勉強の内容をチェックする欄を新たに設ける。